

裁きが近づいている（新約聖書：第二テサロニケ1章6節から10節）

<https://www.youtube.com/watch?v=lzoWcHPab4o>

第二テサロニケ1章、6節から10節になります。私たちは先週5節までいきました。なので、6節から取り組みます。もし可能ならば、どうぞお立ち下さい。私が読むのに一緒について来てください。無理であれば、座ったままで大丈夫です。使徒パウロは、聖霊によってこう書いています。6節。

第二テサロニケ1章

6神にとって正しいことは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、

7苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。

おお、本当に？待ちきれません。これはいつ起こるのですか？パウロは私たちにこう言っています。

このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。

8主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に罰を与えられます。

9そのような者たちは、永遠の滅びという刑罰を受け、主の御前から、そして、その御力の栄光から退けられることになります。

10その日に主イエスは来て、ご自分の聖徒たちの間であがめられ、信じたすべての者たちの間で感嘆の的とされます。そうです。あなたがたに対する私たちの証しを、あなたがたは信じたのです。

わお。祈りましょう。私と一緒に祈りませんか？神が私たちの理解を祝福して下さるように求めましょう。愛する天のお父様、私たちはあなたとあなたの御言葉に本当に感謝します。今日私たちの目の前にあるこの箇所を感謝します。しかし主よ、私たちはまた、この時、私たちが聖霊を必要としていることを痛感しています。私たちの理解を祝福して下さるため、私たちの人生にそれを適用するためには。

ですから、主よ。聖霊によってあなたの御言葉の中で、また御言葉を通して、私たちの人生に語りかけて下さい。あなたのしもべが耳を傾けています。主よ、私たちの注意を引き、あなたがいつもして下さるように、私たちの意識を集中させてください。私たちは祈ります。イエスの名によって、アーメン。

どうぞお座りください。ありがとうございます。

今日の説教のために選んだタイトルは次のとおりです。「裁きが近づいている」

火と硫黄の説教のように聞こえますね。しかし、そうではありません。そして、そうではない理由は、これは、クリスチャンとしての私たちが非常に励まされるべきものだからです。これが今日、私が皆さんとお話したいことです。「なぜ、これによって、信者である私たちが励まされ、」「来たる神の裁きを楽しみにするべきなのか？」裁きはやって来ます。来なければなりません。主が来られます。彼は来なければならぬのです。私が今日共に過ごす時間にやりたいのは、この箇所から皆さんと二つの理由を共有することです。裁きが近づいているということを知ることが、私たちクリスチャンにとってそのような励まし源であるべきなのは何故か。私たちが生きているこの終わりの時代において。最初のものは6節と7節にあります。そして、それは「神は正しい」ということ。さて、これはある種の難しさを提示します。なぜなら、愛である神を義なる神と調和させるのは難しいからです。もしかしたら、皆さんは、福音を分かち合った人とこの会話をしたことがあるかも知れません。そして、それは通常、こんな調子です。「神がそれほど愛に溢れているなら、それならなぜ……」皆さんは空欄を埋めることができますね。そして皆さん、続きがどうなるか分かりますね。公平に言えば、それは必ずしも答えを提供するのが簡単な質問ではありません。私が皆さんと共有したいのは、私がそのような質問に出くわしたときに私を助けてくれたものです。私は、こうするにあたって、過度に単純化するリスクがあることは認識しています。しかし、これは簡単に解決できます。それは、このような見方をすれば、簡単に解決されます。神が悪に関して何もしなかったとしたら、彼は愛の神ではないだろう、と。例えを用いて説明します。あなたが法廷にいるとしましょう。あなたはある裁判を見ています。

そして、証言台にはその犯罪を証言している人がいます。その犯罪を犯したとされる者によって犯された、恐ろしい犯罪です。そして、今、裁判官として座っている裁判官がいます。そして、彼はこの考えられない犯罪を犯したこの犯罪者を見て、そして、彼はそれについて何もしません。それは不当な裁判官です。この犯罪を犯した

加害者によって、被害を受けた被害者はどうですか？ その裁判官は不当であり、それゆえその裁判官には愛がないのです。これが本物の正しい裁判官であり、愛情深い裁判官だったなら、この正しい裁判官は、義にかなった裁きを行うでしょう。

よく尋ねられるもう一つの質問があります。「もし神がそんなに愛情深いのなら、なぜ彼は、この世で悪と苦しみが続くことを許すのですか？」さて、あなたはこれが神の元々の計画ではないことを理解する必要があります。私が若い信者であったとき、未信者からこの質問を受けたことを覚えています。

彼らはこう言いました。「天で、ルシファーが自らを神よりも高め、いと高き方よりも高い地位につこうとしたとき、神が彼を地上に投げ落としたとき、なぜ神はそうしたのですか？」

「なぜ神は彼を処刑してしまって、最初からやり直さなかったのですか？」

これについて考えてみてください。もし神がそうしていたら？ 天の軍勢はみんな、愛からではなく、恐怖から彼に仕えたでしょう。彼らには選択の余地がなかったでしょう。だから、神は、その愛において、義の神として、人類に選択肢を与えたかったのです。だから彼は、善悪の知識の木をエデンの園に置いたのです。すべての木から、アダムとエバはとって食べることが出来たのです。しかし、この一本の木は、禁じられていました。なぜ神はそんなことをしたのですか？なぜなら、神は彼らに選択肢を与えられたからです。これは、義なる神であり、愛の神です。そして、言うならば、罪はその自然の経過をたどらなければならない、神が私たち自身の自由意志において、私たちに与えてくださった主権に関して、私たちがどうするかを選択は私たちのものなのです。私はある解説者の説明の仕方が気に入っています。彼はこう言っています。「最終的に正義が行われなかった世界とは、神の世界であるとは全く言えないだろう。」この二つがいかに容易に調和できるか、分かりますか？神は義です。神は愛です。神には愛があるということではなく、神は愛であるということです。しかし、神が愛であるためには、神は義でなければなりません。

なぜなら、神が義でないのなら、神は愛ではないからです。では、なぜこれが私たちを励ますのでしょうか？なぜなら、パウロが言うように、その日が近づいているからです。なぜなら、神は正しい方だからです。なぜなら、神は私たちをととても愛しているからです。そして、私たちは、この邪悪で悪に満ち墮落した世界にいます。言わば、この世の悪の犠牲になって。その日は来ます。励ましを得て、持ちこたえてください。待ってください。なぜなら、神が決着をつけられますから。神が最終決定を下されます。前にもこれをお話ししたと思いますが、もう一度分かち合いますが、構わないでしょうか。私がこの話をするのに、皆さんが飽き飽きしないことを願います。しかし、これが、私を正気に保っているものです。文字通りに。それは誇張ではありません。私がこの理由を説明します。今日の世界で何が起きているかを見てみると、神の言葉の中のこの真理がなければ、私は気が狂っていたでしょう。神が最終決定を下される、と。皆さんにお話しして、告白したことがあります。私はテレビに向かってよく怒鳴ります。だんだん良くなっています。神はこれに関して助けてくださっています。しかし、時々、私はニュース報道を見ていて、私はこの人物が話すのを聞いています。そして、私はこう思うのです。

「冗談だろう?!」「本当にそう言った?!」「え...?!ん...?!」そして、聖霊がここで、とても穏やかに、とても忍耐強く...私とは、とても忍耐強くないではありません。あのかすかな細い声で私にこう言うのです。「いやいや...神がこれに対処するから。」「いつ?!」—もうすぐ。「遅すぎます!」「彼らは何の罰も受けないですむみたいです!」「主よ、どうしてあなたは彼らに罰を受けさせないでいられるのですか?」「それは本当に邪悪です!」—「分かっている。」

神が天でこんな風に言っているとは決して想像しないで下さい。「彼らがそんな事言うなんて信じられない!」違います。私たちが祈るときに主に報告するようなものです。それは「情報の祈り」と呼ばれています。私を何を言ってるか分かりますか？神が知らないから、私たちが神に知らせなければならないというような感じです。

「主よ、火曜日になにが起こったか知っていますか?」ちょっと待って。神は全知ですよ。彼はすべて知っています。彼は遍在し、全能です。何ですか？あなたは彼を啓発するつもりですか？神が天で「そんなこと知らなかった!」とでも言うかのように。「主よ、あなたはそれについてどうするおつもりですか?」

「わたしは何が起こっているのか知っている。」「わたしは実際に、これが起こるとあなたに告げていた。」

「ただ、待っていなさい。」「わたしがこれに対処するから。」—「ええ、しかし、主よ。彼らは罰を受けな

いで済むようです...！」 「長くは続かない。」 「長くは続かないから。」 「なぜなら、わたしは義の神だから。」 では、来るべき裁きが、私たちにとって励ましの源であるべき第2の理由です。8節から10節です。これが分かり切ったことのように聞こえることは分かっています。しかし、天国は永遠です。考えてみてください。天国は永遠に、そして永久に続きます。永遠なのです。さて、私がこう言う理由は、もし天国が永遠に続くなら、それは、地球はそうではないことを意味するからです。すごく深いですね？しかし、考えてみてください。それは、すべての痛みと苦しみが終わりを迎えることを意味しています。イエスが来て、ご自分の聖なる人々のうちに栄光を受けられるときに。これは永遠には続きません。天国は永遠に続きます。使徒パウロはこのように言います。「苦しみ、試練、この人生の困難は、待ち受けている栄光と比較するに値しない。」ペテロは「一時的な軽い試練」について語ります。私たちの人生にある困難について。一時的？軽い？これはかなり重いです。私はそれを軽いとは呼びません。そして、それは非常に長い間続いています。私は確かにそれを一時的とは呼びません。しかし、彼が言っていることは、永遠に照らしてみれば、私たちはこの人生を経験するのは、それが長く困難であるとしても、それは永遠の最初の何億年とは比べられません。私はジリオン（膨大な数）が数字ではないことを知っていますから、メールを送らないでください。特に数学者である人は。皆さん、要点は分かると思います。ところで、永遠には時間の基準はありません。それは時間ではないからです。それは永遠だからです。しかし、要するに、私たちはこの地球上で70年、75年、80年、85年間、生きるかもしれませんが、永遠とは、比較することさえ出来ません。なぜなら、あなたは永遠がいつまで続くのか知っていますか？

またしても、すごく深いことは分かっています。永遠に、永遠に、いつまでも続くのです。言い換えれば、この世には終わりが来ます。そして最後には、神が最終決定を下されます。だからこそ、それは、私たちにとってそのような励ましの源であるべきなのです。なぜなら、私たちにとっての問題は、私たちが落胆することです。この人生の苦しみの中で絶望に道を譲ることさえあります。主が戻ってくるのを待つ間に。だからこそ、主は戻らねばならないのです。主は来なければならぬのです。そして、主が来て、永遠の破滅をもって邪悪な人々を裁くまで...ところで、付け加えて言わせてください。地獄もまた永遠です。「ああ、牧師さん...」「私はこの男によって書かれた本のことを聞きました。」「よく知られている著者で、地獄は永遠ではないと議論している、と。」それは「靈魂消滅説」として知られている偽りの教えです。これは基本的に地獄は永遠には続かないという信念です。さて、ここに問題があります。それには多くの問題があるのですが、もし天国が永遠でなければ、地獄は永遠ではありません。そして、地獄が永遠でなければ、天国は永遠ではありません。ありえないのです。つまり、それは両方でなければなりません。もし地獄が永遠ではないなら、それは天国が永遠ではないことを意味します。それは聖書が教えていることではありません。それは永遠です。地獄は永遠です。私はそれが何人かの人々の背筋を震えさせると分かっています。しかし、それは真実です。偽りのない真実であり、真理以外の何ものでもありません。神に誓って。イエスは来られ、誰も滅びることがないようにと十字架上で死にました。ひとりでも滅びることは、神の御心ではありません。ところで、神は決して誰をも地獄に送りません。...神は人間のために地獄を造り出したものではありません。全ての人が悔い改めることは神の御心です。地獄はサタンと墮天使のために造られました。悪霊のために。人間のためではありません。ある人がこう言っていて...私は彼の言い方が本当に好きです。

「もし誰かが地獄に行くとするれば、彼らはイエスの死んで復活した体の上を越えてそうするのだ。」

「私の死体を越えて/overmydeadbody」(意味：私の目の黒いうちは絶対にあり得ない)という表現はご存知でしょうか？それはイエスがこう言っているようなものです。

「もし誰かが永遠に地獄に行くなら、それはわたしの死体と復活した体の上を越えてそうするのだ。」

「わたしは来て、わたしは死んだ。あなたが永遠に地獄で滅びないためだ。」

だからパウロはここで、非常に明確にしていると思います。

天国が永遠であるように、地獄も永遠である、と。さて、繰り返しますが、私たちが抱えている問題は..

その時まで、私たちはどうするのか？キーワードは、「その時まで」と言うのも、特にこの終わりの時代では、悪が野放し状態であるようです。そして、世界は日を追うごとにますます悪が満ちて行きます。そして、それは非常に悲しいことです。私たちには、「無知は至福である」という世俗的な表現があります。さて、木曜日の夜に聖書を読み進めていて、「箴言」が終われば、私たちは「伝道者の書」に入ります。伝道者の書には、こうい

う節があります。

「知識を増す者は、悲しみも増す。」 (伝道者の書1：18)

そのポイントは、私たちは、何が来るのかという知識に伴うものを知っているので、それはクリスチャンである私たちに、嘆きをもたらします。そして確かに、私たちは非常に悲惨な時代に生きており、それは本当に辛いのです。時には、悪が野放しになって、ますます悪化するのを見るのは本当に辛いのです。

日を追うごとに、そうになっているようです。さて、皆さんに、「詩篇73篇」に注目して欲しいと思います。これはアサフの詩です。私たちが詩篇を読んでいて、これは特に私たちが時間を費やした詩の一つです。これは、基本的に信仰の危機を抱えていた男の詩だからです。彼は信仰を失いそうになっていました。そして、なぜ彼が信仰を失いそうになったのか知っていますか？それは彼が邪悪な人々の繁栄を見たからです。そして、神はそれについて何もしていないように見えました。ここで彼は自分の人生を、正しく、まっすぐに、誠実に、純粋に歩んでいました。そして、彼は悪者や邪悪な者が繁栄し、野放しになっているのを見たのです。...それは彼をめちゃくちゃにしました。ものすごく。実際、詩篇で、彼はこんなことさえ言っています。

「私は兄弟たちから離れていた。私は彼らをつまずかせたくなかったから。」

「私の葛藤を彼らと分かち合うことによって、彼らをも混乱させたくなかったから。」

「私は無駄に、まっすぐに、正しく歩いているようなものだ。」 「私は邪悪な人を見るが、彼らは、何の問題もないように見えるからだ。」 「そして、私の人生は問題にまみれている。」 なので、彼の言うことを聞いてください。

1節から。

「まことに、神はいつくしみ深い。イスラエルに 心の清らかな人たちに。」 (詩編73：1)

「けれどもこの私は 足がつまずきそうで私の歩みは滑りかけた。」 (詩篇73：2)

そして、3節に理由があります。

「それは 私が悪しき者が栄えるのを見て誇り高ぶる者をねたんだからだ。」 (詩篇73：3)

そして、16節でこう言っています。

「私はこのことを理解しようとしたがそれは 私の目には苦役であった。」 (詩篇73：16)

そして17節、キーワード「...まで」。

聞いてください。

「ついに私は 神の聖所に入って彼らの最期を悟った。」 (詩篇73：17)

「まことに あなたは彼らを滑りやすい所に置き彼らを滅びに突き落とされます。」 (詩篇73：18)

「ああ 彼らは瞬く間に滅ぼされ突然の恐怖で 滅ぼし尽くされます。」 (詩篇73：19)

「目覚めの夢のように 主よ あなたが目を覚ますとき彼らの姿を蔑まれます。」 (詩篇73：20)

言い換えれば、「神の聖所に入るまでは...」ところで、そこは一番行くとよい場所です。あなたが苦しんでいる時は特に。「そして、私は気づいた。ちょっと待ってよ...」「彼らの最期はこのようなのですか？」

...彼らをねたんでいた私は、彼らを気の毒に思い始めます。なぜなら、これが彼らの最期だからです。まったく劇的な変化です。それは、私の視点を完全に変えました。なぜなら、クリスチャンとして、私はそれが私にとってどう終わるかを知っているからです。私にとって、どのような終わりになるのかというと、「ここほど悪いことはありません。」彼らにとっては？「ここほど素晴らしいことはありません！」

それはある意味、(痛みを)和らげるのです。言われているように、未信者にとっては、「ここは彼らが知り得る、天国に最も近いものだ！」それを、じっくりと考えてみましょう。それを、失われた人たちに伝えるために、火をつけてくれるものとしましょう。まだ時間がある間に。これは彼らが知り得る最も天国に近い状態です。今が最高に素晴らしいのです。しかし、クリスチャンにとっては違います。クリスチャンにとっては反対です。これ以上に悪くなることは、ありません。これは私たちが知り得る、最も地獄に近い状態です。今まさに、ここが。「その時まで」は。「その時」とは、私が本当に信じていて、皆さんも信じていることは知っていますが...なぜなら、私たちは毎週それについて話していますから。

「その日まで」...それはすぐに、非常にすぐに、私たちの誰もが想像できないほど早いだろうと私は本気で信じていますが、ラッパが鳴り響き、キリストにある死者が初めによみがえり、そして、生きて残っている私たちは、一気に引き上げられ、空中で主と会うのです。私は、使徒パウロがテサロニケ人に言っていることが大好きです。私たちは、第一テサロニケ4章で見ました。

「ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」 (1テサロニケ4:18)

このテサロニケの教会は、その当時、圧倒的な迫害の下で苦しんでいました。彼らはとても落ち込み、とても絶望していました。だからパウロは、彼が最初の手紙を書いた1年後に、この2番目の手紙を書きます。なぜでしょうか？彼らを励ますためです。彼らはとても落胆していました。彼らはとても落胆していた。彼はこう言っています。「勇気を出しなさい。」「なぜなら、裁きが近づいているから。」「なぜなら、神は義であるから。」「そして、天国は永遠だから。」「そして、これは永遠には続かない。」「これはほんの一瞬に過ぎない。」「ヤコブはこう言っています。

「私たちのこの地上でのいのちは、霧にすぎない。」 (ヤコブ4:14)

年を取るにつれて、今年ももう一度誕生日を迎えますね。それは毎年起こりますよね？自分が何歳だったかを忘れて、年寄りになっていることが分かります。そういう事が、最近、頻繁にあります。だから私は振り返って、計算しなければいけません。「おお...うわ〜！」そして、子どもにあなたの年齢を思い出させるのは、もっと打撃です。彼らがそう言うのが問題なのではなくて、その彼らの言い方なんです。「歳とって来たね。」ではなく、「本当に歳とったよね...！」と。それは...幼子の口から...子どもたちは、驚くべきことを言いますよね？しかし、私が歳を取るにつれて、気づいていることの一つは、

主の来るのが遅くなれば、私には、これから先の年月よりもこれまでの年月の方が断然長いということです。私はこれについて考えていました。なぜなら、今年の6月に、私の40年目の同窓会があることをちょうど思い出された所だったからです。私は行きたくありません。私は40年目の同窓会には行きたくありません。40年ですよ！とにかく、私の問題は十分です。しかし、これは一時的なものです。

それは一時的なものです。これは長く続くものではありません。神は義であり、天国は永遠に続きます。元気を出してください。神の裁きが近づいています。彼が最終決定を下されます。彼が借りを返されます。そして、それで完了です。祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。主よ、このあなたの言葉に感謝します。私は、適切に語られた言葉だと信じています。個人的に、私にとってはそうです。これを準備し、今、それを教えることは、私にとって大きな祝福でした。なぜなら、それが真理だからです。そして、真理は私たちを自由にするものです。主よ、それはとても自由にしてくれ、とても励みになります。主よ、裁きが近づいていることに感謝します。あなたが義であることに感謝します。そして、これは長くは続きません。そして、それは永遠から見れば、ほんの一時的なものです。主よ、早く来てください。イエスの名によって、アーメン。

メッセージbyJDFarag牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

CalvaryChapelKaneohe47-525KamehamehaHwy.Kaneohe,Hawaii筆記hukuinn7